

教えの庭から

明日は、次女・真理子の23回目の命日です。1999年12月25日、真理子はクリスマスイルミネーションを見物するため、友人3人と車で倉敷のチボリ公園を訪れました。その帰りのこと、翌26日午前1時ごろ、国道53号智頭トンネル出口あたりで、飲酒運転の車が対向車線にはみ出し、真理子らが乗った車と正面衝突。真理子を含む3人が亡くなり、1人が重傷を負いました。

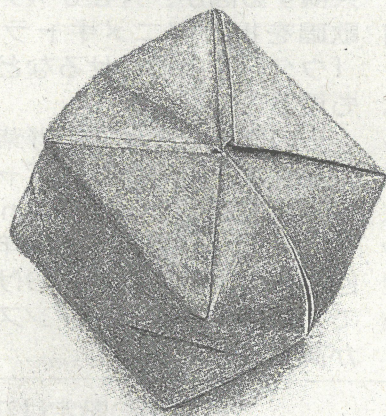
2000年を迎えることなく、夢や希望をかなえることもなく、自分が死ぬなんて、想像もしていなかったであろう娘のことを思う時、悔しくて、悲しくて、切なくて、胸が張り裂けそうでした。娘は20歳、成人式を1月15日に終え、そこ

あれから23年…

出雲市斐川町・仁照寺住職 江角 弘道

から、夢に向かって、3月更そんなこと分かっているにはアメリカでホームステイ、アルバイトで必死にためた貯金で、ヨーロッパ8カ国の語学研修に行き、よいよ、就職活動、卒論に向けて頑張っていました。

私たちが、この言葉の本当の意味を知ったのは、娘の大切な命を亡くしてからでした。その後、私たちは



挿絵 平尾恵郷

大好きな英語を使って海外で仕事をしたいと思っていたようです。

「命が大切」であるとは、誰もが知っていることです。事故の前までなら、その聞き慣れた言葉は、

「ありがとう」または「おかげさま」であるということとです。最近、小学1年生の作文(第10回朝日学生新聞社主催)「いつもありがとう作文コンクール」最優秀賞(2016年)を引用して、生徒・学生たちに話しています。

これは「てんしのいもうと」という題名で、待望の妹が生まれてくる予定でしたが、流産により亡くなりました。その「命」を真剣に見つめ、次のように書いています。

「てんしのいもうと」

「ぼくには、てんしのいもうとがいます。(途中略)ぼくはかのあたがたいひ、ぼくたちは、ぜんこうじさんへいきました。いもうととバイバイするためです。はじめに四人でおでかけをしました。ぼくは、いもうととがてんごくであそべるよいうに、おりがみでおもちゃをつくりました。「また、おかあさんのおなかにきて

「命の大切さ」を若い人たちに話してゆく活動を続けて20年以上になります。

その中で、特に強調して

子どもでも、大人でも死